



京都市地域企業未来力会議 News Letter

令和5年
20号

令和5年12月4日（月）に京都市地域企業未来力会議を京都芸術センターで開催しました。今回は、8月～10月の3箇月間にわたり行われた事業者連携による新たな可能性を模索する公益的な社会実験「京都・地域企業 未来の祭典2023～KYOTO ECONOMIC CULTURE FESTIVAL～」の取組の共有と、参加者による意見交換が繰り広げられました。



▲
地域企業未来の祭典2023
WEBサイトはこちら

開催挨拶

京都市長



門川 大作

京都府中小企業団体中央会

会長 阪口 雄次 氏



地域企業未来力会議から、企業の規模ではなく志を評価する「京都・地域企業宣言」が誕生し、更に地域企業の持続的発展を支援する「地域企業応援条例」が制定され、議論から予算化した事業が生まれた。これまで未来力会議では、地域企業が叡智を集めて議論を展開してきた。顧問をはじめとする諸先輩方にはその議論を見守っていただくとともに、適切な助言をいただきしてきた。このような地域企業が対話を通じてイノベーションの創出に取り組む体制は日本でも例がない。今年度の未来の祭典では、コロナ禍を乗り越え、47件もの社会実験がエントリーされ、昨年と比べて広がりが生まれている。本日も活発な議論が展開され、新たな挑戦が生まれていくことを期待している。

門川市長におかれは、16年のご活躍とともに、これまで地域企業に寄り添ったご支援をいただいたことに御礼を申し上げる。コロナ禍も明けたが、地域企業の眼前には様々な経営課題が山積している。門川市長からこれまで様々なご視座をいただいた未来力会議は、京都・地域企業未来の祭典へと発展を遂げた。益々、皆さんの叡智を集結させ、京都の地域企業だからこそ可能な、実効性のある取組を育んでいただきたい。



第一部:前半: 地域企業等による公益的な社会実験を通して見えてきた取組の企画背景等の共有のプレゼンテーション



2事業者以上の連携により新たな可能性を模索する 公益的な社会実験は47の取組がありました。当日は14組が実験内容と共に今後協力してほしい点など、約5分間での発表がありました。

各発表者からは、自己紹介と以下の5つの問い合わせに答える形式で、取組の企画背景や現状課題の共有がありました。

- Q. どんなことをやってみましたか？
- Q. どんな目標を設定しましたか？
- Q. どんな価値を発見できましたか？
- Q. どんな課題や阻害要因を発見できましたか？
- Q. 取組を広げていくために必要なことは？



会場の参加者からは、フィードバック・コメントを記入いただき、各発表者へお渡ししています。

01 アート×ビジネス共創拠点「器」キックオフミーティング

| 京都芸術センター 副館長 山本 麻友美 氏



京都の多様な文化芸術と、産業政策のスタートアップ支援等を融合した新たな取組が2023年度から本格的にスタートした。実験では領域の垣根を超えたコラボレーションの事例共有とともに交流会を開催し、延べ96名の参加があった。アートの社会的・経済的な価値を高め、アーティストの国内外での評価を高めることで、その活動基盤や創作活動を活発化させる、アートを取り巻く体系（エコシステム）の好循環を形成していく。また、文化芸術に特化した寄付サイト「Kyoto Art Donation」ほか、地域企業の参加について呼びかけがあった。

02 使用済み衣服の回収 「リリースキャッチプロジェクト」

| (株)ヒューマンフォーラム 代表取締役 岩崎 仁志 氏



不用品の回収と再利用を行うイベント「循環フェス」を梅小路公園で開催。使用済み衣服の回収BOX「RELEASE↔CATCH」を、京都市を中心に約200か所設置した。今年度は特に「若者」「地域の方々」「地域事業者」と企画を深め、関係資本を蓄積することで、今後は事業として継続していくための収益確保を目指しており、経済的メリットを超えた関わりが生まれた。ALL KYOTOで関わってもらいたい、との声かけがあった。

03 自企業よし！地域よし！京都市よし！-未来へ繋ぐ三方よし-

| 京都商工会議所青年部（京都YEG）部会長・(株)千昇堂 代表取締役 長谷川 千佐子 氏



京都YEGでは、京都商工会議所の若手経営者、後継者の集まりとして会員300名が活動をしている。未来の祭典では、京都市との連携事業として取り組んだ。社会課題への取組を自企業の存続・発展に繋げることを目的に未来の祭典から8社の地域企業にご参画いただき、それぞれの社会課題のテーマを基に事業アイデア創造に向けたディスカッションを行った。最優秀賞にはNPO法人ともつくるテーマ「高齢福祉との連携」が選ばれ、今後、特典としてコミュニティ・バンク京信及び京都YEGの伴走支援を予定している。

04 企業と学生が作る新しい広報「京MOTTO」

| FlamingJune合同会社 代表社員 下島 満 氏



京都にまつわる120の職業の解説やインターン情報発信を行う「職業名鑑京MOTTO」を2023年夏にスタートさせた。未来の祭典では、企業人と学生がBBQ、焚き火を通じて語り合うイベントの実施、インターンの実施とその報告会を実施した。会期中のイベントには35名が参加。例えばインターンでは株式会社ジェイ・エス・ピーに2名が参加し、広報大使として密着してもらい、参加者自らが企業を知り、企業の魅力を発見いただくことができた。今後は学生と企業が語れる場や、一緒に何かを体験し時間を共有できるイベントなどを展開していく。

05 地域のおしごと博物館

| (一社)未来コンシェルジュ 代表理事 鈴木 千鶴 氏 / 龍谷大学 2回生 三尾 彩乃 氏



お仕事体験で地域創生を行うことを目的に、2019年から、子供向け地域版お仕事体験プログラムを展開し、これまで12箇所 1,068名が参加した。今年度は事業化を目指し、参加企業から参加費、協力企業からの協賛集めを行った。また他府県の高等学校のカリキュラムに選ばれたことで、他府県への展開も見えてきた。またアウトカムの計測では、2回以上参加した小学生の83%に良い変化が見られた。学生リーダーチームから当団体の理事に2名を選び、体制も強化することができた。今後、各地域にチームを形成することで持続可能な実施体制を生み出していく。

06 空ノ下ノ映画館のための「公開/航海収録イベント」

| (株) SOU 代表取締役 仲田 匡志 氏



京都府内で野外上映会を企画実施する地域企業のプロジェクトチームを結成し、「まちに必要な映画」を追求している。未来の祭典では、大丸京都店の屋上を会場にし、親子で思い出を作ることを目的に親子向け野外シアターイベントを開催した。文化や社会課題が楽しく伝えられ、共通の体験ができるといった映画の価値を再確認することができた。継続的な資金の獲得や体制について課題の言及があるとともに、メンバーの募集や年間サポーターなどの関わりの呼びかけがあった。

07 ～まなび基地 jukuHOPE～堀川商店街 knocks!horikawa

| (一社) 子どものよりよい育ちを支える会 代表理事 西村 奈美 氏



堀川商店街の中に2013年から多様な立場の個人や団体が協同運営する場を開いている。未来の祭典期間中に京都に昔からある「地域の子は地域で育む」という理念を伝えるため、子供たちの学びの場とまちのシェア型図書館が一つになった新しいスペースを設置した。「本×学び」が生み出す価値や可能性を発見し、子供が大人との出会いや学びに触れる機会の創出に繋がった。情報発信や収益性、運営基盤を改善し、今後も交流、情報受発信の拠点としての取組を広げていく。

08 しまばらSOZORO

| (株) F&I クリエイト 中井 恵里 氏



島原周辺地区にて様々なジャンルで活躍する人が働きかけ、住む人、働く人、過ごす人たちが「思わず関わりたくなる!」楽しいまちなかを目指すプロジェクトを始めた。未来の祭典では、協力店舗の独自イベントを巡って楽しめる「ぞぞろ歩き」体験を開催し、毎月15日に開催していくための検証を行なった。開催後の振り返りとして「補助金活用による実施内容の制限」や「まちづくりと資金」についての気づきの共有があつた他、祭典期間中の出会いを今後に活かしていくための参加の呼びかけがあった。

09 古くて新しい“一本歯下駄”を体験してみよう！

| (株)バランステック京都 萌田 駿哉 氏



一本歯下駄のGETA LABOは、伝統技術とスポーツ科学のもと最新のエビデンスを基に現代版にアップデートし、多様な領域と共に日々研究開発を行っている。未来の祭典では伏見の商店街の散策を行い、地元伏見の歴史・現在を知り、一本歯下駄を通じた交流を図った。散策を通じて高齢化への対応や商店街・地域の交流の課題を発見した。今後も「一本歯下駄」を通じて、お互いを知りながら地域活性化に資する取組を行い、文化・魅力の発信を行っていくと発表があった。

10 京都祭コインcomo地域企業共創プロジェクト - オープンカンパニーイベント -

| (株)夢びと 代表取締役 中田 俊 氏



共創する場づくりが必要と考え、四条烏丸でコミュニティースペースを運営している。20社で原資を出し合い地域通貨『京都祭コインcomo』を発行した。通貨の用途を限定した発行が可能であり、配布されたコインを使って地域企業やユーザーと繋がる対話イベントを定期開催している。2023年5月以降延べ300名ほどが参加し、現在ユーザーが581名になった。大学の授業や修学旅行生を対象に受け入れて実施している。どのようにお金が社会にあるのが良いか、という議論が広がっている。関心のある地域企業へ共創の呼びかけがあった。

11 NO KINTSUGI NO EARTH～金継ぎと地球～

| (株) kurumi 代表取締役 佐々木 大 氏



洋食器専用の金継ぎキットを開発した。障害のある方の社会参加や、物を大切にするという新たな価値観の醸成、破損した器の資源活用を目標に取り組んでいる。未来の祭典では福祉事業所でワークショップを行い、平等な社会づくりのきっかけをつくることができた。また、破損した器を仕入れ先として、ステンドグラスの製造会社と連携するとともに、運送業者との連携を模索している。関心をもった地域企業への連携の呼びかけがあった。

12 amiami CANVAS 展

| 合同会社amiami 代表社員 高野 杏実 氏



障害のあるアーティストの作品を伝え、笑顔を届ける事業を運営している。2023年夏にアートキャンバスを一定期間、定額で利用できるサブスクリプション事業をスタートさせた。未来の祭典では地域企業と連携しQUESTIONと、はあと・フレンズ・ストアの2箇所でキャンバス展を開催した。数名の顧客獲得のほか原画販売のニーズも確認できたほか、福祉施設の利用者との新たな出会いも生まれた。祭典をきっかけに大丸京都店での展示販売会につながった。企業相談も増え、現在14件のサブスクリプションの契約が生まれている。2026年には1000件の契約を目指していく。

13 Kyo-working Dialog

| クレジットエンジン（株） 取締役COO・京都市企業連携営業アドバイザー 新色 顕一郎 氏



京都に進出する企業を支援し、これまで40社の受入サポートを行ってきたが、進出企業が京都に定着するためには地元の企業や行政とつながる必要がある。未来の祭典では進出企業と地域企業との共創を目指す“繋がりづくりの場”を小規模な社会実験として行った。9社が参加し、進出企業のニーズや今後のコミュニティ形成のヒントを得ることができた。この実験結果を参考にして、11月には大規模な交流会を開催することができた。民間企業から独自のつながりを生み出す取組も生まれている。今後も広がりを作りたい。

14 第2回 京都・地域企業勉強会

| 京都市ソーシャルイノベーション研究所・世界人権問題研究センター 専任研究員 井上 良子 氏



地域企業勉強会では、未来の祭典の社会的意義や可能性についての議論の共有があった。「未来の祭典の社会的意義はコミュニティを越えた人と実験の集合体である」との確認があったほか、社会実験の失敗を社会で共有することで「まちのR&D機能」を果たせるといった意見も出た。また、普段接点のなかった新しい出会いから、次の新しいプロジェクトが生まれたなどの共有があった。未来の祭典の運営について主体的な関わりも生まれており、地域企業が地域に必要だと思う活動を応援し合う仕組みづくり=「地域企業によるまちの運営」を目指すべきなどの意見があった。今後も意義や可能性についての対話を深めていく。

各発表を受け、社会実験に参加した方々からの意見、感想

(株) フラットエージェンシー

代表取締役社長 吉田 創一 氏



東京大学連携研究機構

不動産イノベーション研究センター

特任研究員 長瀬 洋裕 氏



令和5年度は京都商工会議所青年部（京都YEG）の会長を務めた。コロナで元気がなくなった京都を盛り上げることを願い、京都・地域企業未来の祭典を通じて、京都市との連携事業を行うことができた。結果、100社を超える会員との対話が広がり、感化された会員が独自で社会実験を行った機会も生まれ、大変喜ばしいと感じている。未来の祭典は関わった事業者それぞれにメリットがあった。YEGは会費で運営を行っている。未来の祭典も会費を皆で分担しながら運営を行うことも視野に入れ、引き続き来年度の開催に向けての議論を広げていきたい。

全体を通して京都の地域の魅力を活かした取組が多かったことが印象的であった。また、発表内容からも様々な視座がみられた。経済や効率だけを追求するのではなく、あえて、ゆるいコンセプトを設定することや、スロースタートといったキーワードやアプローチがみられたのも良い。社会実験として、成功事例だけでなく、失敗も大切にしていることはとても重要である。うまくいかなかったプロセス自体を共有し、失敗から何を学ぶかを考え、次のアクションに繋げていっていただきたい。

顧問からの応援コメント



顧問の方々からは、様々な地域企業による社会課題解決の取組や発言が広がり、昨年よりもさらなる内容の充実があったことについて評価する発言があった。そして、継続するための収益性や長期計画の重要性についてのご助言をいただいた。また顧問の皆様から金融機関に協力を呼びかける場面もみられた。

今後も各取組の持続的な実施のために、デジタル地域通貨の活用や、財務の強化など、引き続き大きな目標と志を持ち、参画者を広げ、さらなる発展を目指してほしいと激励があった。参加した地域企業が各取組の持続的な実施のために必要な次の1歩について視座を深めた。



第一部後半： 世界文化自由都市としての京都をどう実現できるか？

参加者同士による意見交換

第一部後半は、参加者による少人数に分かれての意見交換を実施していただきました。最も関心を持った発表の取組やその理由を共有した後、参加者自身が、世界文化自由都市の実現に向けて今後どのような働きかけや仕組みをつくれるかをテーマに意見交換をしていただき、交流を深めました。

意見交換の結果の共有として、発表のあった取組で印象的なものについて意見を広げたほか、社会実験をする場自体の重要性や、「社会性と事業性」の重要性について議論が広がりました。来年度の実施に向けて「ファイナンスのプロを交えたマネタイズの勉強会の開催」や「ファンドの設立」などのアイデアの発表がありました。



意見交換の様子



第二部：交流会

交流会では発表者と参加者が交流を深めたほか、参加者の中には来年度の未来の祭典への参加を目指す方がおられるなど、来年度の開催に向けて活発な議論が広がりました。

交流会の様子



●事務連絡

地域企業応援プロジェクトWEBについて

地域企業応援プロジェクトWEBについて 地域企業未来力会議の内容や、地域企業のアイデアの具体化を支援する、「地域企業応援会」等の情報を掲載しています。是非アクセスしてみてください。

京都 地域企業応援プロジェクト 検索 <https://community-based-companies.kyoto/>
 京都市 地域企業未来力会議facebook <https://www.facebook.com/kyotoshichushokigyo>

発行：京都市地域企業未来力会議 事務局（京都市産業観光局 地域企業イノベーション推進室）
 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
 TEL 075-222-3329 FAX 075-222-3331
 URL <https://www.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>
 MAIL chiikikigyo@city.kyoto.lg.jp

